

第1回

検討委員会

資料



芦屋市地域の特性等について

目次

資料作成の目的	1
1．自然	3
1-1．芦屋市の地形・地質	
1-2．芦屋市の植生・植物	
1-3．芦屋市の生き物	
2．歴史	9
2-1．まちの変遷	
2-2．災害の歴史	
3．まちの魅力	15
3-1．文化と文学のまち	
3-2．歴史ある川と魅力ある道	
3-3．地域の活動	

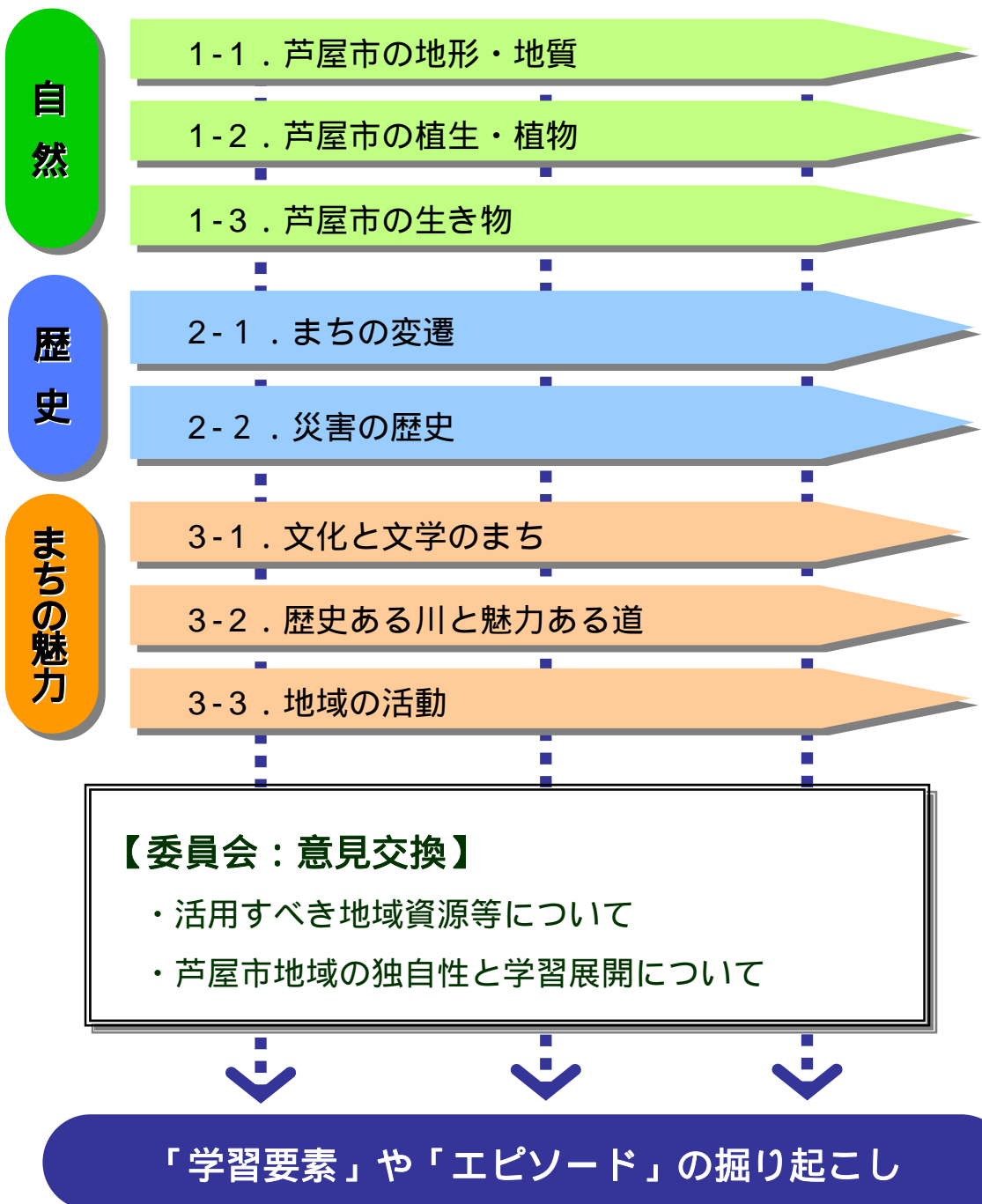
平成19年10月11日（木）

国土交通省 近畿地方整備局 六甲砂防事務所

資料作成の目的

本資料は、芦屋市の地域特性の概要を「自然」「歴史」「まちの魅力」の観点から整理したもので、学習展開の検討に向けた基礎情報の確認と共有化を目的としています。

さらに、本委員会での意見交換を通じて、芦屋市独自の学習展開を図る上で柱となる「学習要素」や「エピソード」を掘り起こし、今後の検討に繋げていくものです。



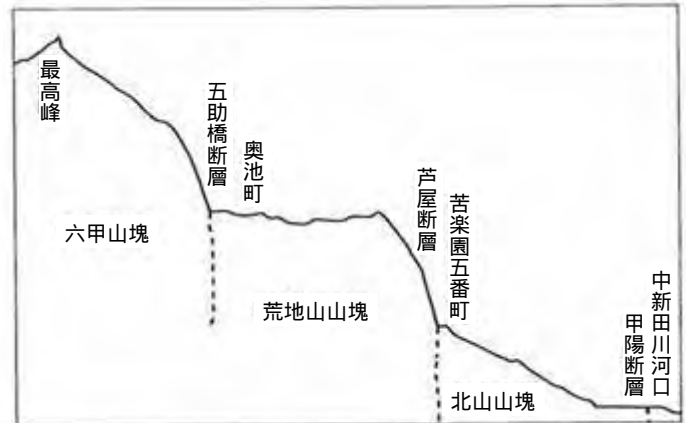
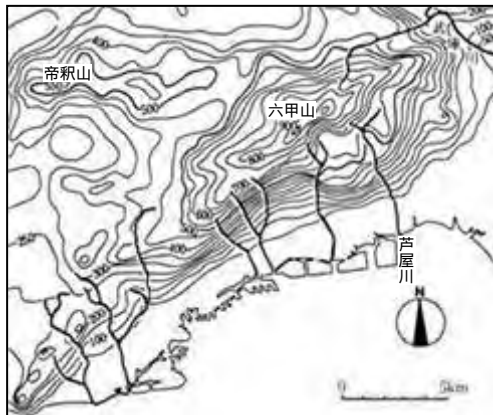


六甲山地・芦屋市の地形と地質

- ・六甲山地は、宝塚市から西宮市、芦屋市、神戸市須磨までの約30kmにのびる山地です。山頂部は、標高700～900mの比較的平坦な地形となっているほか、斜面中腹にも、なだらかな地形が分布しています。
- ・芦屋市では、奥池町や芦屋カントリー周辺が平坦面となっています。こうした地形は、六甲山地が断層運動の繰り返しで形成された生い立ちを物語っています。

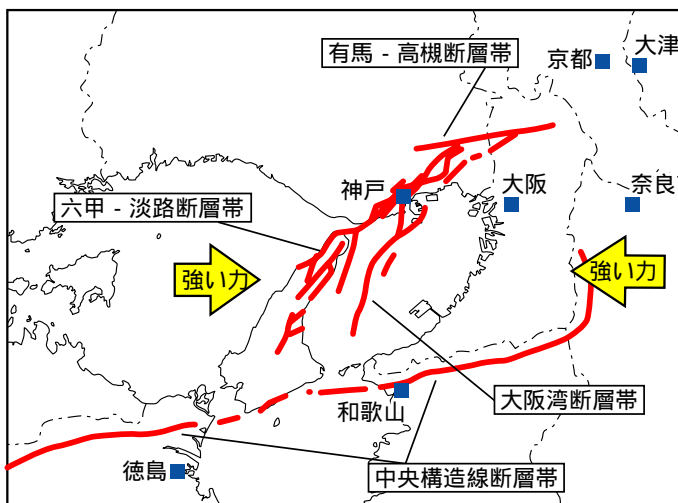


六甲山地の様子



六甲山地の生い立ち

- ・六甲山地は、右ずれの性質を持つ2つの断層帯が交わる位置にあり、今から約400万年前から東西方向に強い圧縮力が加わり、断層運動を繰り返していました。
- ・その後も圧縮力による断層運動は続き、それまで数段の準平原であった六甲地帯は隆起を始め、約100万年前に現在の地形になりました。こうした地殻変動を六甲変動と呼んでいます。



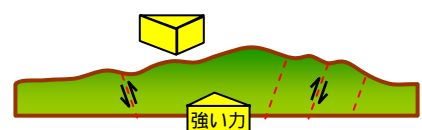
神戸周辺の活断層

準平原



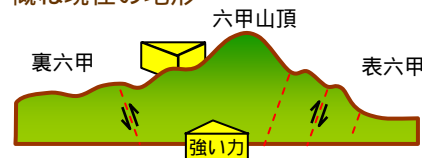
へんどう

六甲変動の始まり



おおむ

概ね現在の地形



六甲変動イメージ

芦屋市の特徴的な地形と地質

奥池町平坦面の様子



- ・芦屋市山地部も含め六甲山地は、主に花こう岩で形成されています。花こう岩は、雨風に長くさらされると崩れやすくなる性質を持っています。
- ・芦屋市周辺山地部の特徴的な景観となっている「芦屋ロックガーデン」も、花こう岩が雨風の侵食によって作りだされた特異な景勝地です。その他、風吹岩、弁天岩、フカ切岩など、昔から信仰の場とされた特異な花こう岩が多く見られます。



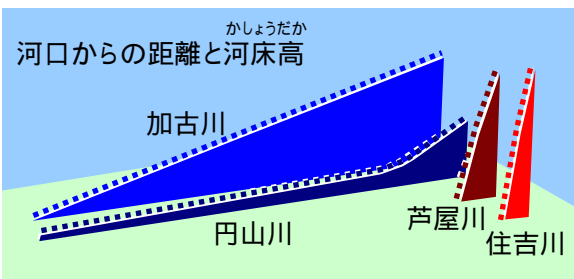
芦屋ロックガーデン



風吹岩周辺からの眺め



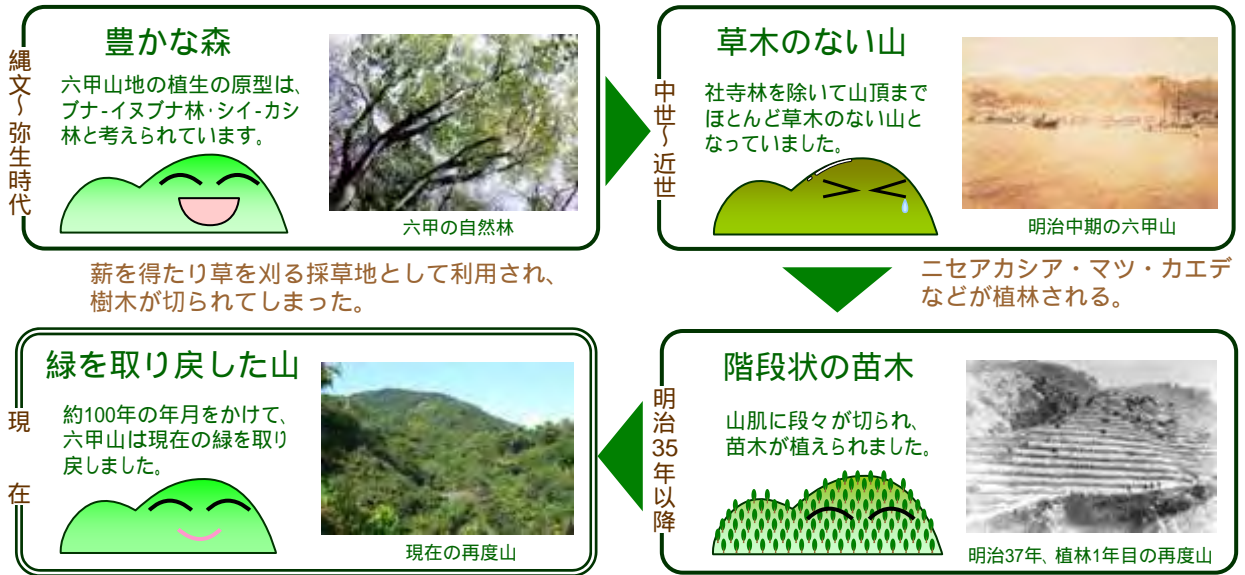
- ・六甲山地の表面では、花こう岩の風化が、かなり進んでいると考えられ、豪雨における山崩れや、土石流等の災害の原因ともなっています。
- ・六甲山から流れる芦屋川は、大雨の度に土石（風化した花こう岩を含む）を下流へ運び、山麓の平野部に扇状地を形成しています。
- ・また、芦屋川は、川底が周辺の平地よりも高いところを流れる天井川になっています。



芦屋川の下を通るJR鉄道の様子（天井川）

復活した六甲の緑

・六甲山地の植生の大部分は人間の経済活動により荒廃しましたが、明治時代以降の植林から、100年に及ぶ緑回復への様々な努力の結果、人や動植物に恩恵をもたらす豊かな緑がよみがえってきており、現在、六甲の緑は回復途上にあります。



六甲山（芦屋市周辺）の植生

・六甲山の現存植生の大半は、アカマツ林に代表される二次植生であり、自然植生はきわめて限られています。

・芦屋市周辺では、コナラ-アベマキ群落、アカマツ-モチツツジ群落などで構成され、谷筋沿いにはクズ-フジ群落、ウツギ-ボタンツル群落が見られます。



凡例	自然植生	アカマツ - ハナゴケ群落
	スマガヤオーダー (湿源の植生)	
	アラカシ群落	
	コナラ - アベマキ群集	
	二次植生	アカマツ - モチツツジ群集
	タラノキ - クサイチゴ群集	
	クズ - フジ群落及びウツギ - ボタンツル群落	
	ススキ - ネザサ群落	
	ミヤコザサ群落	



- ・芦屋市周辺の自然植生としては、奥池周辺のアカマツ-ハナゴケ群落、ごろごろ岳周辺のヌマガヤオーダー(湿原の植生)が現存し、「奥池周辺の湿地植物群落」は、貴重な植物群落(A)として、県指定されています。
- ・その他、「東お多福山のススキ・ネザサ群落」が、貴重な植物群落(B)として、県指定されています。
- ・谷筋沿いで、コブシ、コムラサキ、ヤブウツギなどの貴重な植物が確認されています。

兵庫県版レッドデータブック：貴重種のランク
 (A)：兵庫県内において絶滅の危機に瀕している種
 (B)：兵庫県内において絶滅の危機が増大している種



奥池周辺の様子



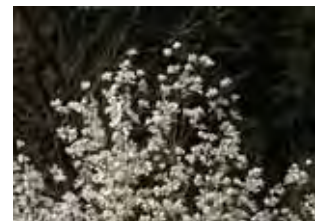
東お多福山(ススキ・ネザサ群落)



■ ハナゴケ



■ ヌマガヤオーダー



● コブシ(近畿R)



● コムラサキ(近畿R)



● ヤブウツギ(兵庫R)

- ・また、芦屋市には、瀬戸内海自然公園特別地域内指定植物(環境省)として、モウセンゴケ、ショウジョウバカマ、ミカツキグサ、ヤマトキソウなどが確認されています。



モウセンゴケ



ショウジョウバカマ



ミカツキグサ



ヤマトキソウ

芦屋市の代表的な生き物と貴重な生き物

ほ乳類

- ・六甲山地のほぼ全域で見られるほ乳類として、イノシシ、キツネ、タヌキなどが挙げられます。
- ・その他、ノウサギ、ニホンリス、テン、アカネズミ、コウベモグラ、なども確認されています。
- ・なお、兵庫県指定の貴重種であるジネズミ、ニホンリスは、芦屋市では確認されていない状況です。



ニホンイノシシ

鳥類

- ・六甲山地で年間を通して観察される鳥類として、シジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、メジロ、コゲラ、ヒヨドリ、キジバト、ウグイス、ホオジロ、ハシブトガラスなどが挙げられます。
- ・その他、溪流や山間部の池などの水辺で見られるカワセミ(兵庫R)、コサギ、アオサギなどが確認されています。



シジュウカラ



ヒヨドリ



カワセミ(兵庫R)



コサギ

- ・レッドリスト記載種であるミサゴ、ハチクマ、ハイタカ、ハヤブサの他、近畿や兵庫県において選定されている貴重種が約50種程度確認されています。



● ミサゴ



● ハチクマ



● ハイタカ



● ハヤブサ

両生類・は虫類

- ・代表的に見られる種として、ウシガエル、アマガエル、カナヘビ、シマヘビなどが挙げられます。
- ・兵庫県において選定されている貴重種であるイモリ、タゴガエル、カジカガエルなどが確認されています。



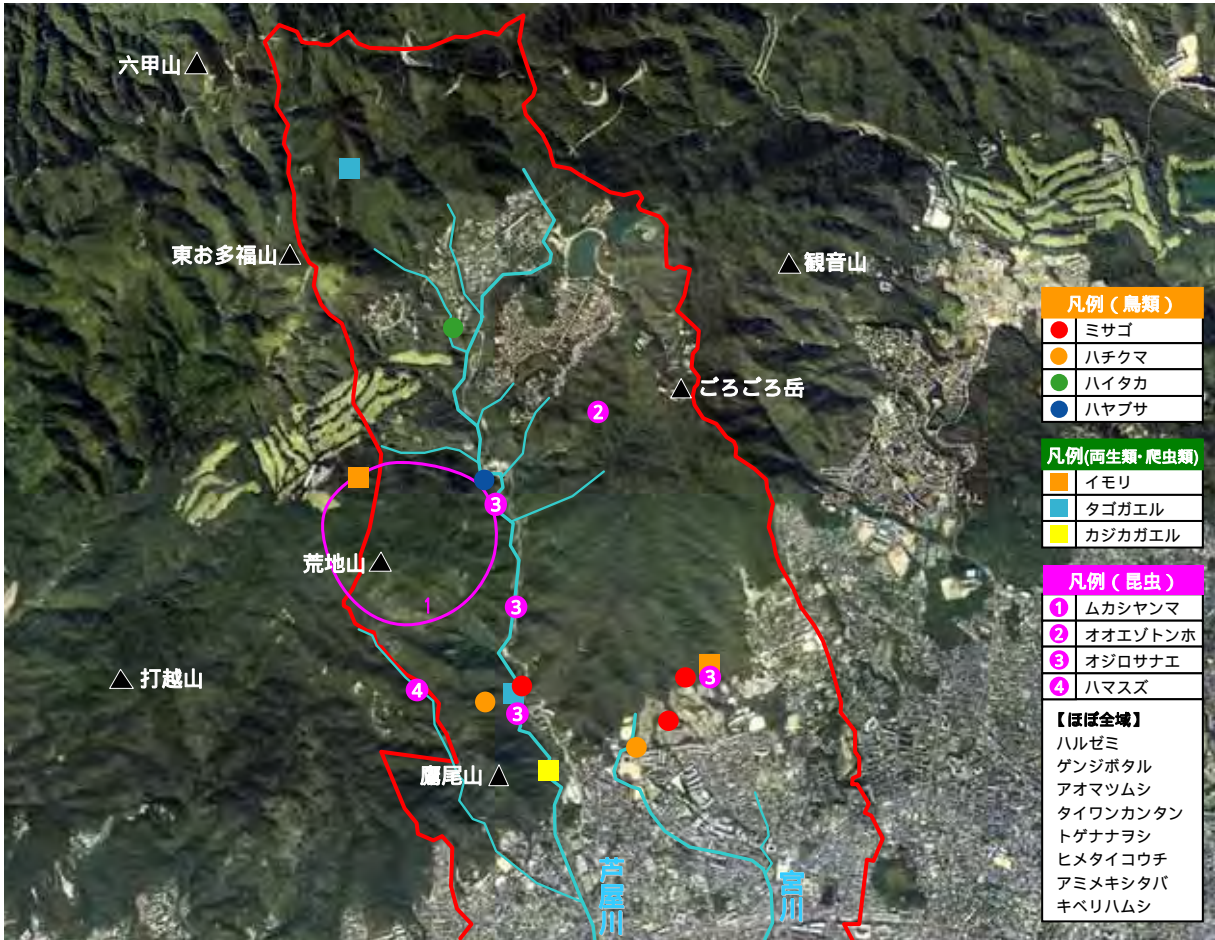
■ イモリ



■ タゴガエル



■ カジカガエル



昆虫

- ・数多くの昆虫が確認されていますが、芦屋川などの水辺周辺にて代表的に見られる種として、ナガメ(カメムシ)、ツマグロヒョウモン、カワトンボなどが挙げられます。
- ・兵庫県において選定されている貴重種であるムカシヤンマ、オオエソトンボ、トゲナナフシ、オジロサナエなどが確認されています。



ナガメ



ツマグロヒョウモン



カワトンボ

魚類

- ・代表的に見られる種として、カワムツ、オイカワ、ムギツク、ドンコなどが挙げられます。
- ・レッドリスト記載種であるオヤニラミ、兵庫県において選定されている貴重種であるアマゴなどが確認されています。



カワムツ



オヤニラミ



アマゴ(兵庫R)

古代～中世：祖先は縄文時代から

- ・**縄文時代**頃から、芦屋地域に人々が暮らし始め、狩猟・植物採集を中心とした生活が行われていたことが、「山芦屋遺跡」や「朝日ヶ丘遺跡」などの出土品から分かっています。
- ・**弥生時代**になると、生活の形が農耕中心へと移り変わり、集落も生まれました。当時の「会下山遺跡」は高地性集落と呼ばれるもので、竪穴住居のほか高床式倉庫の跡が残っています。



朝日ヶ丘遺跡



会下山遺跡

- ・**古墳時代**後期のものとされる「八十塚古墳群」が、岩園神社や芦屋神社に現存しています。また、古代氏族の系譜書に、芦屋漢人(あしやのあやひと)の名が見られ、すでに芦屋は渡来人による先進文化の地であったことがうかがえます。



八十塚古墳群（岩園神社）



八十塚古墳群（芦屋神社）

- ・**飛鳥時代**、大化の改新で、夙川から生田川までの地方は、葦屋郷(あしやごう)・賀美郷(かみごう)がある菟原(うなひ)郡となりました。
- ・**平安時代**には、「延喜式」に「葦屋駅馬十二疋」とある葦屋駅もおかれ、京と西国を結ぶ交通の要所でした。また、「伊勢物語」で有名な在原業平は、芦屋に住んでいたといわれています。この他、「万葉集」や「和歌集」など、しばしば文学の世界に取りあげられています。



業平の歌碑（松ノ内緑地）



業平橋

中世～幕末：農村の形成

- ・中世、戦国時代になると、芦屋は戦いの舞台となり、楠木正成と足利尊氏の打出・西宮浜合戦や、若松物語で知られる鷹尾城(城山)の合戦は有名です。こうした戦乱の中、人々は結束を固め、打出、芦屋、三条、津知という四つの村が生まれました。
- ・近世、江戸時代には、新田開発も活発化し、芦屋川などの「水」の恵みをうけ、農村地帯として発展してきました。



農事次第之図屏風（農作業のようすを描いた屏風 江戸時代後期）

- ・一方、芦屋川は急流であるため、氾濫による土砂交じりの田畑が多く、干ばつ被害は深刻な問題で、「水」をめぐる争いが度々起こり、雨乞いの習俗もうまれました。
- ・弁天岩やフナ切り岩などに、雨乞いにまつわる民話が残っています。



弁天岩

- ・幕末の頃、こうした水不足の解消を図るため、芦屋村の村長であった猿丸又左衛門安時が、芦屋川上流で「ため池」の築造に取り組み、20年余りの苦心の末に奥池が完成しています。



奥池

- ・「水」は作物を育てるだけでなく、その流れは、水車を動かす原動力となり、芦屋の産業の発達を促しました。
- ・水車は、製粉や精米、油絞に使われ、芦屋川沿いの「水車谷」の地名や民家の石垣に残された石臼から当時の歴史が偲ばれます。



民家の石臼の石垣

明治～昭和：農村から住宅地へ

- ・**明治時代**、芦屋、打出、三条、津知村の四つの村が合併して精道村が成立しました。田園風景の広がるのかな農村であった精道村時代の芦屋は、交通の発達とともに文明開化の波が訪れ、めざましい発展をとげました。
- ・**大正時代**から昭和にかけ、国鉄芦屋駅や阪急芦屋川駅が設けられ、山手でも住宅化が進んでいきました。

明治38年：阪神電車が開通。
大正2年：国鉄(現JR)芦屋駅が開設。
大正9年：阪急電車が開通、芦屋川駅が開設。
昭和2年：阪神国道(国道2号)開通。

- ・この頃から「芦屋」の地名は、「富裕と知性」の代名詞となり、「東の鎌倉、西の芦屋」と対比されるようになりました。また、昭和初期、日本有数の高級住宅街となる六麓荘が、形成されました。



業平橋を通る国道電車

昭和～現在：芦屋市の誕生、文化都市への歩み

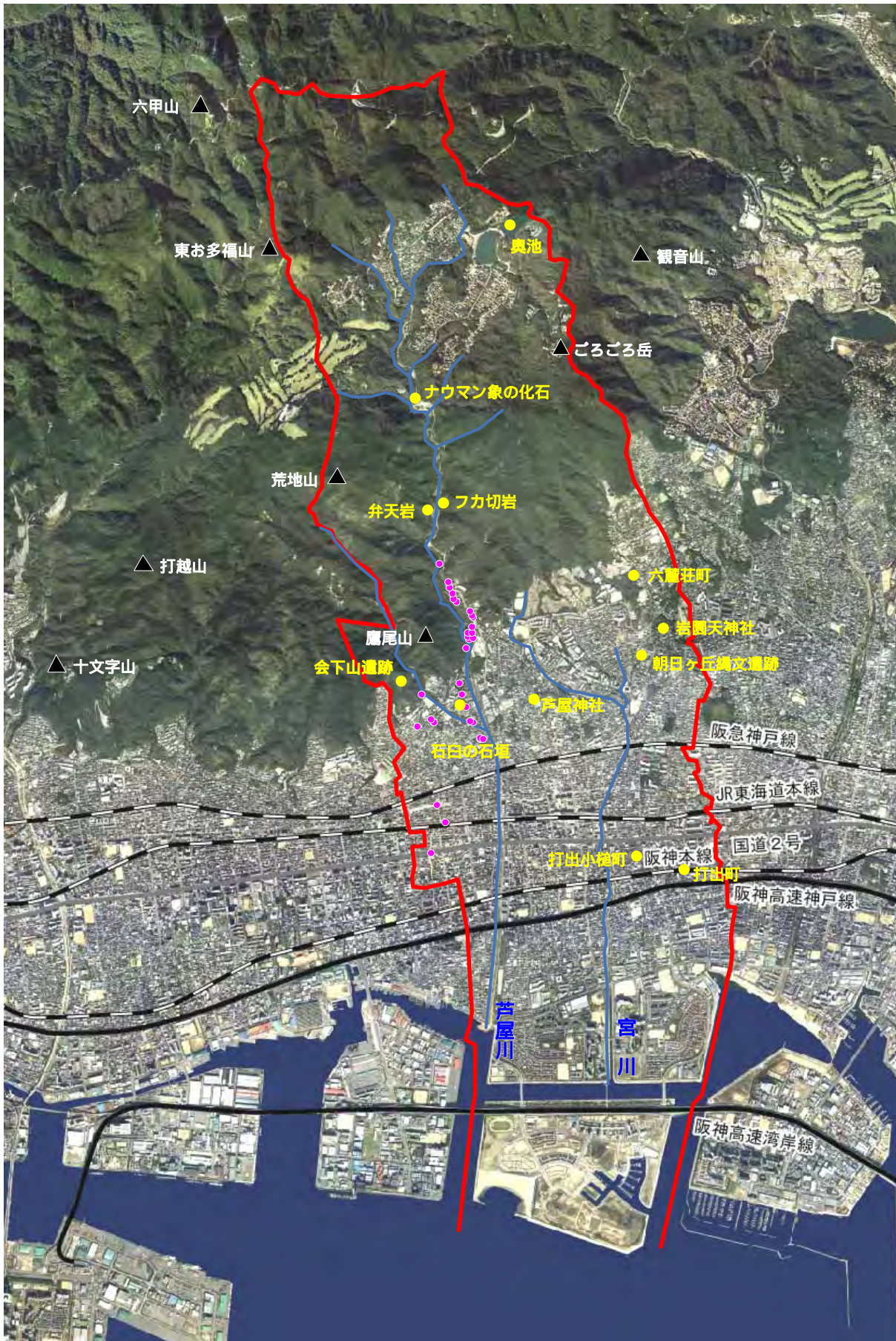
- ・**昭和時代**の初め、昭和9年と13年に大風水害があり、甚大な被害を受けました。大水害による復興を経て、昭和15年に精道村民の永年の宿望であった市制実施が実現しました。当時、一躍村から市に移行したことが注目されました。
- ・その直後から、第2次大戦の空襲により甚大な被害を受け、およそ市の40%の家が焼けましたが、市民の手で力強く復興されました。
- ・昭和26年には、国際文化住宅都市建設法による「芦屋国際文化住宅都市」に指定され、「国際性と文化性あふれる住宅都市の形成」を目標に、住宅都市づくりが進められてきました。



昭和20年代頃の市街地の様子



現在の市街地の様子



まちの変遷を物語る資源等の分布図

水害と砂防事業

昭和13年水害（阪神大水害）

- ・六甲山地では、これまでに何度も水害が発生しています。なかでも、大きな被害を出した昭和13年と昭和42年の災害は、今なお歴史にその爪あとを残しています。
- ・**昭和13年の水害（阪神大水害）**では、降り続いた長雨で六甲山地の各地で山崩れが発生し、土石流が市街地に流出し、大災害となりました。芦屋市においても、芦屋川や宮川の氾濫により、大きな被害が発生しました。



昭和13年水害（阪神大水害）による芦屋市の被害状況

- ・阪急芦屋川駅の上流に位置する開森橋付近には、**芦屋川決壊の地を示す碑**が残されています。隣接する細雪の碑や、谷崎潤一郎記念館の入り口に置かれている石は、阪神大水害の際に流れ出た巨石であるといわれています。
- ・また、阪神大水害で被害を受けた当時の桜橋の橋脚が残されています。



芦屋川決壊の地を示す碑



細雪の碑



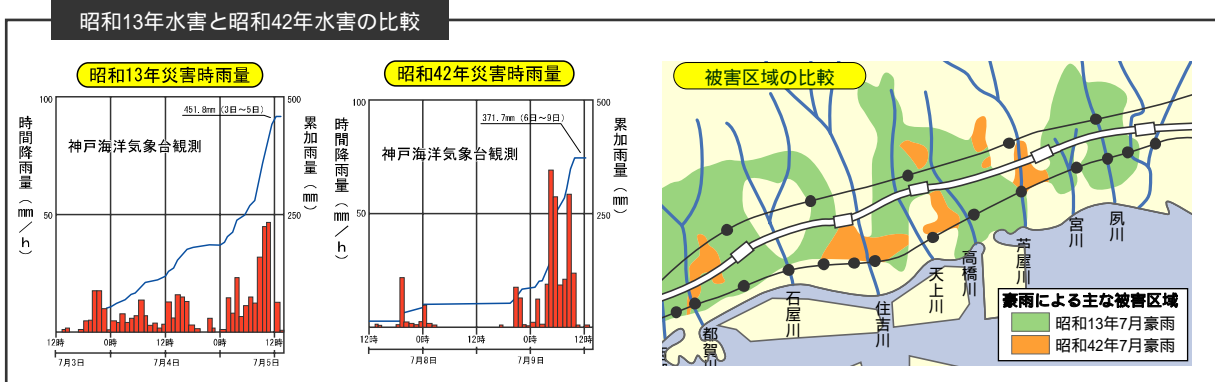
阪神大水害当時の桜橋の橋脚

国の直轄による砂防事業

- ・昭和13年水害を契機に、国の直轄による六甲山系の砂防事業が始まり、芦屋市においても、直ちに城山堰堤や高座堰堤などの整備に着手しています。
- ・**昭和42年の水害**は、最大60分間雨量が阪神大水害時を上回るものでしたが、砂防施設の効果により、被害の規模は阪神大水害に比べ著しく減少しています。



城山堰堤（昭和16年竣工）



兵庫県南部地震と砂防事業

- ・平成7年の兵庫県南部地震により、六甲山地の各地で山腹崩壊が起こり、その後の降雨によって崩壊地はさらに拡大し、その数は1000ヶ所以上にも達しました。
- ・地震によって緩んだ地盤は、今後の大雨などによる土砂災害の危険性があります。
- ・そのため、六甲山系、斜面全体の安全性を高め、あわせて良好な都市環境の創出を目指す「**六甲山系グリーンベルト整備事業**」にも取り組んでいます。



山腹崩壊の様子



グリーンベルト対象区域（六甲山系東部：芦屋市周辺）



六甲山系グリーンベルト整備事業の概要

芦屋固有の文化、文学者たちの足跡

- ・六甲山を背景に広がる阪神地域では、明治時代の鉄道網の開通とともに大阪商人をはじめ、芸術家や文化人が移り住み、別荘地、郊外住宅地として発展しました。和の伝統を尊重しつつ、西洋文化を取り入れた「阪神間モダニズム」と呼ばれるモダンな文化スタイルが築られました。
- ・芦屋市には、こうした固有の文化を現在に語り継ぐ建築物や美術館、さらに、芦屋を舞台の1つに活躍した文学者たちの足跡が数多く残っています。

ヨドコウ迎賓館（旧山邑太左衛門邸）

- ・灘五郷の造り酒屋、櫻正宗の当主山邑太左衛門の依頼でアメリカ人建築家フランク・ロイド・ライトが設計した個人住宅。
- ・1974年、大正時代以降の建造物として、また鉄筋コンクリート建造物としても、初めて国の重要文化財に指定されました。



ヨドコウ迎賓館

滴翠美術館

- ・大阪の両替商、布屋の四代目で山口銀行（現三菱東京UFJ銀行）を興した山口吉郎兵衛の邸宅の一部を美術館用途として改装。
- ・陶磁器を中心とした1500点以上の日本美術品コレクションを収蔵、展示しています。



滴翠美術館

富田碎花旧居

- ・「兵庫県文化の父」といわれた詩人富田碎花の貴重な遺品や原稿などを展示しています。
- ・「細雪」などで知られる文豪、谷崎潤一郎も居住していたことがあり、住時の面影を伝えています。



富田碎花旧居

谷崎潤一郎記念館と細雪の碑

- ・谷崎潤一郎の貴重な遺品や原稿などを展示しています。また、阪神大水害での芦屋川決壊の地（開森橋周辺）には、氾濫の様子が描かれた「細雪」の碑が建てられています。

俵美術館

- ・江戸時代の筆記道具「矢立」をコレクションとする日本で唯一の美術館。様々な矢立1500点余りを収蔵し、約150点を常設展示しています。

エンバ中国近代美術館

- ・収蔵品の基礎は実業家植野藤次郎氏のコレクション。近代と現代中国の景德鎮などの陶磁器・刺繍・絵画・工芸品を展示しています。



谷崎潤一郎記念館

芦屋市立美術博物館

- ・美術館と歴史博物館の設備を併せ持つ複合施設。小出檜重や吉原治良など芦屋にゆかりのある芸術家たちの作品を展示しています。



芦屋市立美術博物館

虚子記念文学館

- ・明治から昭和期に活躍した俳人、小説家である高山虚子の記念館。虚子の孫である稲畑汀子氏(俳人)によって運営されています。
- ・虚子が師と仰いだ正岡子規との往復書簡や俳詩「ホトギス」に連載されていた夏目漱石の「我輩は猫である」の原稿が展示されています。
- ・月若公園には、虚子、年尾、汀子の親子三代の句が刻まれた三代句碑が建てられています。



虚子記念文学館



文化施設等の位置

歴史が漂う川

芦屋川

・市内最大の河川で、山間部5kmに深いV字谷を刻み、南麓に扇状地を生み、天井川となって海へと流れています。その流れに沿って、高台には海を見下ろす豪壮な邸宅、点在する古代の文化遺跡、桜や松の並木道があり、幾多の物語や文学の舞台にもなってきました。



芦屋川（業平橋付近桜並木）



芦屋川（河口付近松並木）

宮川

・宮川は打出川とも、江戸時代には都川とも呼ばれていました。また、古くは渡来系氏族の関係から呉川とも言われました。河畔には、西国街道なごりの道標や石仏、古墳がひっそりと息づき、まちに秘められた栄枯盛衰の歴史を静かに物語っています。



宮川（宮園付近ケヤキ並木）



宮川（河口付近）

市民に親しまれる魅力的な道

・芦屋市内には、公募によって名づけられた愛称道路が21路線あり、市民に親しまれています。



岩園並木坂



ライト坂



花水木通り



潮風通り



さくら参道



山麓線

市民に親しまれるハイキングコース

・芦屋市周辺の六甲山地には、古くから市民に親しまれてきた8つのハイキングコースがあり、経験や体力に応じた幅広い世代が登山を楽しめます。

ハイキングコースの主な見どころ



Ⓐ 東お多福山



Ⓑ 奥池周辺



Ⓒ 鷹尾山からの眺め



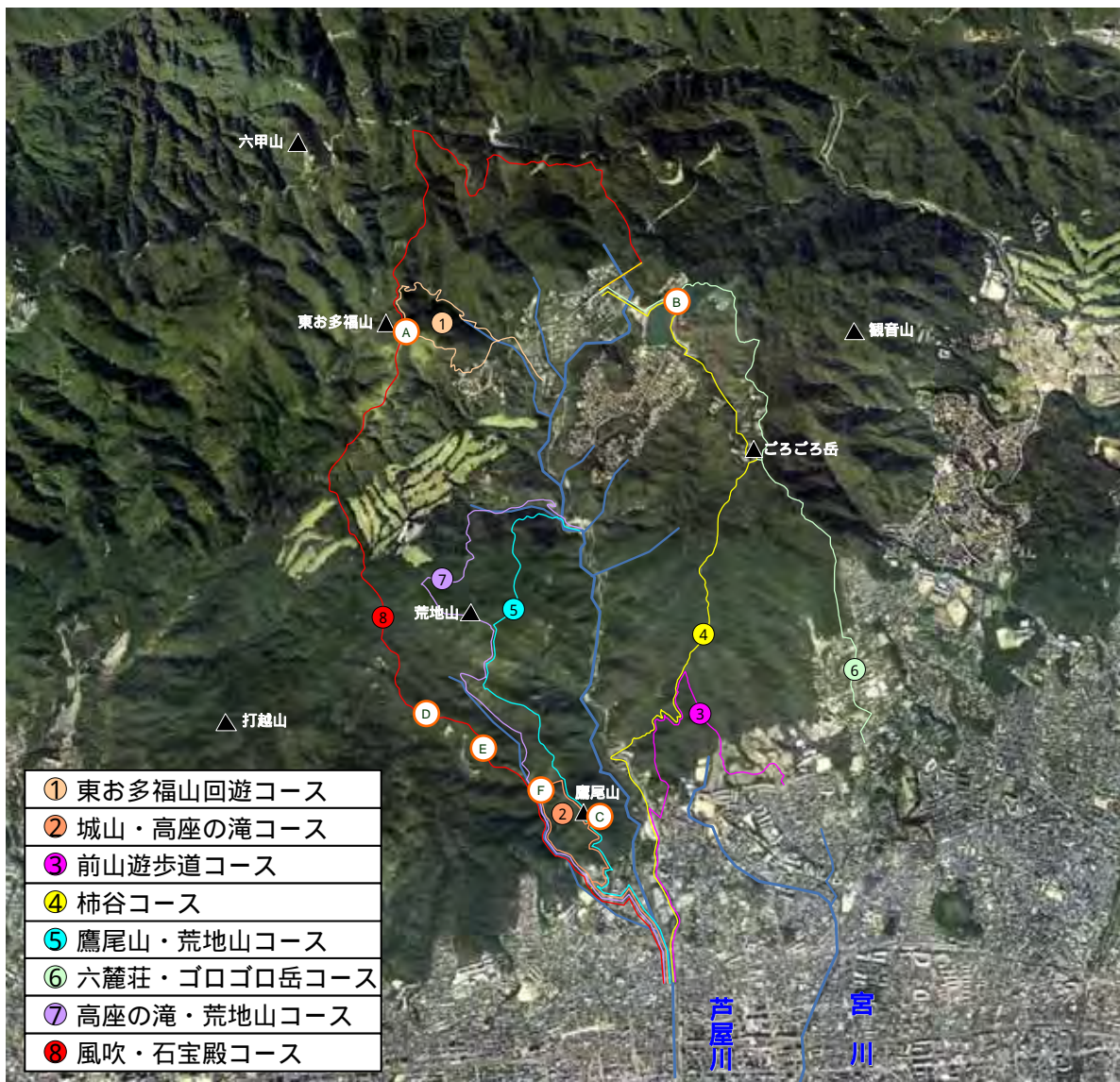
Ⓓ 風吹岩からの眺め



Ⓔ 芦屋ロックガーデン



Ⓕ 高座の滝



ハイキングコース図

環境学習などの活動状況

- ・芦屋川や宮川、六甲山などをフィールドに、様々な環境学習やそれを支援する取り組みが展開されています。

市内の小中学校等教育機関

- ・芦屋市の山や河川の生き物を調べ、生態や水質調査などによる環境学習活動を実施しています。

芦屋の自然を守る会

- ・豊かな自然を持つ芦屋市とその周辺地域の生活環境やライフスタイルなどにもっと関心を持ち「私たちでできる環境保全活動の輪」を広げることを目標に活動しています。

芦屋川に魚を増やそう会、芦屋川の自然林を守る会

- ・芦屋川水系及び宮川水系に、自然を創出できるよう提言し、管理に協力することで自然を守り育てたり、魚種を増やすための活動を行っています。

芦屋登山会

- ・芦屋にベースをおき58年の歴史を持つ会。月2回の日曜日を行動日とし、1回は「市民ハイキング」と称し、誰でも集合場所に集まれば参加できるオープン制で、もう1回は会員の研修会を実施しています。

財団法人ひょうご環境創造協会

- ・エコキッズルームやひょうご環境学校などの子どもが身近な環境について学び体験できる機会を設け、環境学習に取り組んでいます。

六甲山自然保護センターを活用する会

- ・六甲山魅力再発見市民セミナーなど、六甲山自然保護センター(周辺施設)を市民活動の拠点として活かしながら、六甲山についての情報発信や環境学習プログラムの開催などを行っています。

六甲山と市民のネットワーク(RCN)

- ・六甲山の魅力発見を図るための自然探索・自然案内をサポートする「自然探索系」や「エコツーリズム推進モデル事業」などを展開しています。

六甲砂防事務所

- ・砂防事業等に関する出前講座、六甲山ウォーク、どんぐり育成による環境学習、親子植樹体験教室などを行っています。

様々な活動の様子

